

NEWS(PRESS) RELEASE

令和5年3月24日
市民生活部 大王支所

タイトル	大王美術ギャラリー企画展 「岩中徳治郎展」を開催します
概要	<p>岩中徳次郎（いわなかとくじろう）は、和歌山県出身の画家で、昭和19年1月から6年余りの間、志摩市阿児町の横山のふもとで疎開生活を送りました。戦後、創作活動を再開、昭和23年の第一回三重県展で知事賞を受賞します。津市さらに関東へ転居し、大学で教鞭をとりながら、日本各地・世界各地でグループ展・個展において作品を発表しています。</p> <p>岩中は、美しさの秘密を抽出しその法則を探求しようと、50歳を超えて抽象作品の世界へと足を踏み入れました。その後、この分野を多く手がける一方で、風景画などの具象作品も継続して描いています。</p> <p>大王美術ギャラリーは、旧阿児町から引き継いだ岩中の作品を数多く所蔵しています。</p> <p>今回の展覧会では、そうした岩中徳次郎の探究の軌跡をご紹介するとともに、志摩の自然がどのような影響を与え、美しい比率を伴った抽象表現へと向かっていったのかを概観します。</p> <p>別紙「岩中徳次郎 略歴」 (『岩中徳次郎画集』1984年12月発行より) 「私と私の絵」岩中徳次郎 (" " 巻頭文)</p>
開催日	<p>令和5年4月27日（木）～令和5年5月29日（月）（26日間） 休館日：火曜日・水曜日（祝日の場合は、開館） 観覧料：無料 ※ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更または中止になる場合があります。 ※荒天による警報発令時は、臨時休館となります。</p>
開催時間	9時～17時（最終入館は16時30分）、最終日は16時閉館。
開催場所	志摩市絵かきの町・大王美術ギャラリー 2階展示室
主催	志摩市
参考HP	https://www.city.shima.mie.jp/kakuka/gallery/index.html
お問合せ先	<p>志摩市市民生活部大王支所 担当 井上、榎屋 TEL 0599-72-4336 FAX 0599-72-4317 e-mail d-artgallery@city.shima.lg.jp</p>



志摩半島の鵜方の山中で開墾生活にはいったのは昭和 19 年 1 月の末であった。生活に疲れ、絵も行きづまって悩んだ末、零から出直そうと考え、木を切り根株を起して耕す生活から始めることにしたのであった。家も殆ど自分の手で建て、井戸を掘り、鶏や兎を飼い、自給自足の生活を志しての毎日の重労働が続いた。

そうして翌 20 年 8 月の終戦を迎えることになったのである。戦後は食糧と物資の不足の中で、文化国家の建設が唱えられ各地にいろいろな文化団体が生れてきた。すべてを捨てた筈の私の身边にもそうした波が押しよせてきて、地元では志摩国立公園設立の運動が始まりそれに加担し、志摩美術協会を作り、県展にも参加するなど、山を降りる日が多くなってきた。それに加えて大変なインフレとなり、猫の額程の開墾畑では何としても生きる術がなくなり、ついに山の生活を放棄して津市に出る決心をしたのである。

今の県立美術館の近くに少年院があって、その片隅の小高い丘の赤松と雑木の密生した中の空家を、世話してくれる人があって移ることにした。庭はなく軒下まで雑木で埋ったところであったが、それが幸して私の自然の形体研究の契機となり、セザンヌ研究へと発展したのであった。

セザンヌ研究を始めたことがきっかけとなって抽象画に転じ今日に至った。始めは風景画など物象をモチーフとして抽象化することが多かった。一時期アンフォルメル風の絵も描いたが、次第に形とか構成とかを考えるようになり、時にはすべてのものは基本矩形の組合せであると考え、その組合せに没頭し、それが様々に組合さる状態を作ろうとして、基本矩形を組合せた棒状のものを作り、それを並列して廻転させ、またそれに色を加えて「廻転による形と色の変化」という作品をつくったりすること数年、その後は平面作品に戻り、10年以上続いている。ここに収録したものはその中から選出したものである。

私はいつも何を描こうかではなく、こういう考え方をすればどんなものができるか、こういう組合せからはどんなものが生れるかと、いうなれば実験の繰り返しであった。パウル・クレーが「私は一度だって文学的なモチーフを扱ったことはない。私は造形を行うのだが、その後に詩的観念と、造形的観念とが偶然一致するだけのことである。」といったことがわかるような気がするのである。

かような訳で私は毎日毎日がスタートに立っている気持であり、恐らく命尽きる日までそれが続くのではないかと思う。

かえりみると、6年余の原始的ともいべき鵜方の山での生活は、私にとっては多くのことを学ぶことができた。それからは何か私ではない外からの力が手引きしてくれるままに歩いてきたような気がするのである。

『岩中徳次郎画集』(1984年12月)より

発行 岩中徳次郎画集刊行会

発売所 株式会社総美社

岩中徳次郎 略歴

西暦 (和暦)	年齢	記事
1897 (明治30)	0 歳	和歌山県西牟婁郡上富田町岩田に生る
1917 (大正6)	20	大阪府天王寺師範学校卒業
1917 (大正6) ~43	20	大阪府、和歌山県下の学校で教員
1929 (昭和4)	32	日本美育家協会展に出品 受賞
1930 (昭和5) ~31	33	槐樹社展に出品
1932 (昭和7) ~54	35	東光会展に出品
1936 (昭和11)	39	文展入選
1944 (昭和19)	47	三重県志摩郡阿児町鶴方に転居移籍
1948 (昭和23)	51	第一回三重県展にて知事賞を受く
1949 (昭和24) ~57	52	三重県展審査員となる
1950 (昭和25)	53	東光会会員に推挙さる (1956 脱退)
1951 (昭和26)	54	津市大谷町へ転居
1955 (昭和30)	58	国際アート・クラブ会員に推挙さる
1955 (昭和30) ~65	58	各種アート・クラブ展に毎回出品
1956 (昭和31)	59	神奈川県へ転居
1958 (昭和33) ~64	61	多摩美術大学講師
1964 (昭和39) ~67	67	大阪常磐会短期大学教授
1966 (昭和41)	69	ニュージオメトリックアートグループ会員入会
1966 (昭和41) ~84	69	ニューヨーク・サンフランシスコ他、世界各地でグループ展、個展
1967 (昭和42) ~72	70	大阪関西女子美術短期大学教授
1974 (昭和49) ~89	77	京都市美術館・東京都美術館他で特別出品、招待出品、日本各地で個展
1982 (昭和57)	85	三重県立美術館開館記念「三重の美術・現代」招待出品
1989 (平成元)	92	92歳で逝去。第15回東京展(東京都美術館)に出品
1994 (平成6)		三重県立美術館県民ギャラリー・阿児ライブラリー「岩中徳次郎展」

参考資料

『岩中徳次郎画集』1984年12月岩中徳次郎画集刊行会

『岩中徳次郎展』1994年6月三重県立美術館・

阿児ライブラリー



岩中徳次郎 展

2023年4月27日（木）～5月29日（月）

絵かきの町・大王美術ギャラリー

◎開館時間：午前9時00分～午後5時00分（最終入館 午後4時30・企画展最終日 午後4時00分）

◎休館日：毎週火曜日・水曜日（祝日の場合は開館）

◎観覧料：無料

◎問い合わせ：〒517-0603 三重県志摩市大王町波切 3234-2

TEL0599-72-4336 FAX0599-72-4317

